

令和 6 年度
学校評価書

小浜市立内外海小学校

[ここに入力]

令和6年度 学校教育評価設問 回答結果

< 4段階評価 > A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない 評価はA+Bの%を表示する

数値は、左からA→B→C→D の評価結果 ※ () 内はA+B の値

青字=目標値達成 赤字=目標値未達成

めざす学校・児童	スクールプランに掲げられた取り組み	教師評価	児童評価	保護者評価
地域を愛し地域に愛される子・地域に愛される学校	「ふるさと学習」を通してふるさと内外海に誇りをもち、自分が地域のためにできることを考える。	- ふるさと教育を通して、内外海に誇りをもちたせることができた。 70-30-0-0 (100%) - 地域のために何ができるかを考えさせた。 50-50-0-0 (100%) ➢ 100%	- ふるさと学習を通して、内外海が好きになった。 85.5-13.0-1.5-0 (98.5%) - 内外海のために自分ができていることを考えた。(3～6年のみ) 81.9-16.0-2.1-0 (97.9%) ➢ 90%	- わが子は「ふるさと学習」を通して、ふるさとをより好きになった。 34.4-59.4-4.8-1.4 (93.8%) - わが子は自分が地域のためにできていることを考えていた。 14.1-48.4-35.9-1.6 (62.5%) ➢ 90%
	児童が学びや成果を積極的にアウトプットする。また、その姿や成果を、学級通信やHPなどを活用し地域へ積極的に発信する。	- 児童は学びや成果を積極的にアウトプットしていた。 60-40-0-0 (100%) - 児童の学びの姿や成果を学校(学級)を通して積極的に発信した。 50-50-0-0 (100%) ➢ 100%	学んだことやできたことを、友だちやお家の人、地域の人にすすんで伝えた。 62.3-33.3-2.8-1.6 (95.6%) ➢ 90%	お便りや学校ホームページで、子どもたちの学びの姿や成果を知ることができた。 62.5-32.8-4.7-0 (95.3%) ➢ 90%
志をもって、主体的に学び続ける子	基礎・基本の学力の定着や問題解決能力を伸ばす授業を実践する。	- 基本的な学力(知識・技能)が定着するように取り組んだ。 70-30-0-0 (100%) - 児童自身が自ら問いを立て、解決しようと主体的に学ぶ課題設定につながるような教材研究・授業づくりを行なった。 30-60-10-0 (90%) ➢ 90%	- 毎日の授業や家庭学習に一所懸命に取り組んだ。 68.1-20.3-11.6-0 (84.4%) - 分からないことや知りたいことについて、すすんで調べることができた。 76.8-21.7-1.5-0 (98.5%) ➢ 80%	わが子は、主体的に家庭学習に取り組んだ。 20.3-37.5-34.4-7.8 (57.8%) 80%
	授業DXを推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	日々の授業や活動で、ICTを効果的に活用した授業改善を行った。 60-40-0-0 (100%) ➢ 90%	クロムブックを活用して学んだり、意見を交換し合ったりすることができた。 84.1-15.9-0-0 (100%) ➢ 80%	

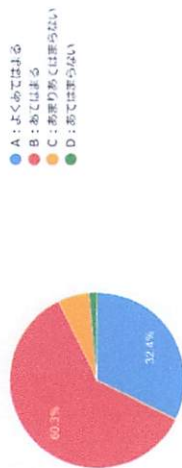
[ここに入力]

めざす学校・児童	スクールプランに掲げられた取り組み	教師評価	児童評価	保護者評価
	学んだことや考えたことを、積極的に伝えることができるようにする。	● 児童自身に自分の意見を持たせ、しっかりと伝えることができるような取組を行なった。 60-40-0-0 (100%) ➤ 90%	● 自分の意見や考えを持ち、相手に積極的に伝えようとした。 59.4-31.9-7.3-1.4 (91.3%) ➤ 80%	
	家庭と連携し、多様な読書活動に取り組む。	● 多様な読書活動に取り組み、読書を推進した。 30-70-0-0 (100%) ➤ 90%	● ボランティアの読み聞かせや学年間の読書交流などを通して、読書に親しんだ。 55.1-39.1-4.4-1.4 (94.2%) ➤ 80%	● わが子は、家庭で読書に取り組んだ。 23.4-20.3-25.0-31.3 (43.7%) ➤ 80%
主体的に多様な「ひと・もの・こと」とつながり合う子	つながる喜びを感じる活動を設定し、周りの人と関わろうとする態度を育成する。 (自己有用感・公共の精神・集団生活の充実)	● ポジティブ教育など、スキル向上を図る活動や、つながる喜びを感じる活動を行った。日常のあらゆる場面でのふり返りを通して、児童に自己有用感を育んだ。 80-20-0-0 (100%) ➤ 90%	● 友だちと協力して活動することを楽しむことができた。友だちのためにすすんで行動できた。 79.7-20.3-0-0 (100%) ➤ 90%	● わが子は、友だちと協力して活動することを楽しんでいる。 53.1-43.8-3.9-0 (96.1%) ● わが子は、家庭での生活で、お手伝いや自分の仕事を通して、自分が家族の役に立っていると感じている。 25.0-59.4-15.6-0 (84.4%) ➤ 80%
	相手を意識した気持ちのいいあいさつ・返事ができるようにする。 (礼儀・感謝)	● 相手を意識した気持ちのいいあいさつや返事ができるように指導した。 90-10-0-0 (100%) ➤ 100%	● 相手に伝わる声であいさつや返事をすることができた。 62.3-33.3-4.4-0 (95.6%) ➤ 90%	● わが子は、相手を意識し、相手に伝わる声であいさつや返事をしている。 15.6-46.9-31.3-6.2 (62.5%) ➤ 80%
	人権学習や道徳授業等を通して、互いを理解し、助け合おうとする態度を育成する。(友情・信頼・相互理解・寛容)	● 児童が互いに理解し、信頼し、助け合う態度を身につけるよう、人権教育や道徳の授業を意図的、計画的に行った。 40-60-0-0 (100%) ➤ 90%	● 道徳や人権の授業などで考えたことを、生活の中でいかそうとした。 44.9-40.6-13-1.5 (85.5%) ➤ 80%	

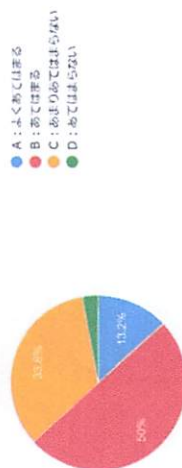
めざす学 校・児童	スクールプランに 掲げられた取り組み	教師評価	児童評価	保護者評価
「一所懸命 に、たくま しい心と体 をつくる 子」 担当：藤本 小林 新田	学校の環境を生かした体力づくり に取り組ませる。	● 学校環境を生かした体力作 りに取り組ませた。 60-40-0-0 (100%) ➤ 100%	● 業間マラソンや縄跳びなど の体力づくりに一所懸命に 取り組んだ。 71.0-24.6-3.0-1.4 (95.6%) ➤ 80%	● わが子は、学校の体力づくり を通して、体力がついてきて いる。 40.6-50.0-7.8-1.6 (90.6%) ➤ 80%
	自己への気づきの学びにより、自己 効力感を高め、困難に負けない心を 育成する。	● ポジティブ教育等に取り組組 み、児童の自尊感情や自己肯 定感を高めようとした。 70-30-0-0 (100%) ➤ 100%	● 全校ポジティブで学んだこ とをいかして、行事や学習活 動に取り組んだ。 49.3-39.1-8.7-2.9 (88.4%) ➤ 80%	
	清掃活動への専念や日々の整理・整 頓を心がける態度を育成する。	● 児童に、無言を意識させ清掃 に集中して取り組ませた。 90-10-0-0 (100%) ➤ 90%	● 掃除に必要なことをし やべらずに、集中して取り組 んだ。 84.1-11.6-4.3-0 (95.7%) ➤ 80%	
	家庭と連携し、規則正しい生活習慣 を身につけさせる。	● 早寝早起き朝ご飯の大切さ 等、規則正しい生活の大切さ について家庭と連携して取 り組むことができた。 50-50-0-0 (100%) ➤ 90%	● 早寝・早起き・朝ご飯を心が けた生活ができた。 58.0-33.0-8.0-1.0 (91.0%) ➤ 80%	● わが子は、規則正しい生活習 慣を心がけている。 21.9-51.6-23.4-3.1 (73.5%) ➤ 80%

保護者回答結果

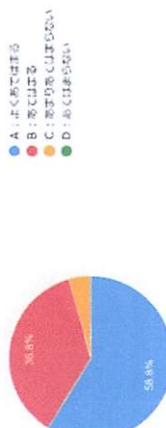
①-1 わが子は「ふるさと学習」を通して、ふるさとをより好きになった
68 件の回答



①-2 わが子は自分が地域のためにできることを考えていた。
68 件の回答

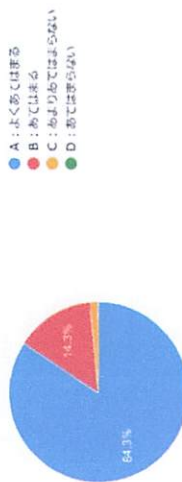


①-3 お祭りや学校ホームページで、子どもたちの学びの姿や成果を知ることができた。
68 件の回答

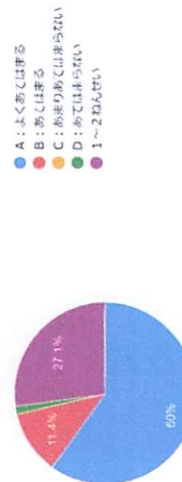


児童回答結果

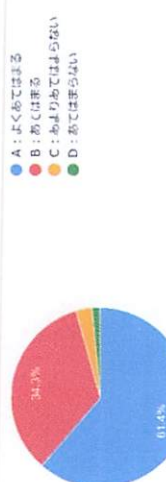
①-1 ふるさと学習を通して、内外海が好きになった。
70 件の回答



①-2 内外海のために自分ができることを考え、...下の「1〜2ねんせい」をえらんでください
70 件の回答

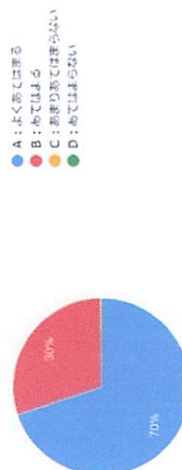


①-3 学んだことやできたことを、友だちやお家の人、地域（ちいさ）の人にすすんで伝えた。
70 件の回答

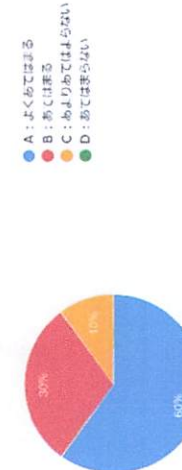


教職員回答結果

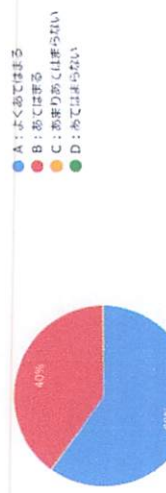
①-1 ふるさと学習を通して、内外海に誇りを持たせることができた。
10 件の回答



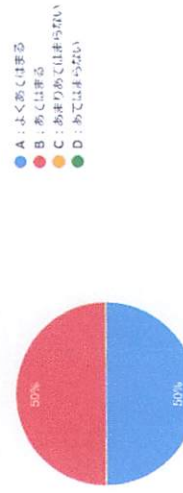
①-2 地域のために何ができるかを考えさせた
10 件の回答



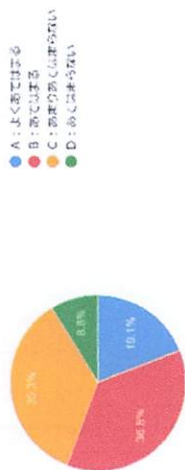
①-3 児童は学びや成果を積極的にアウトプットしていた。
10 件の回答



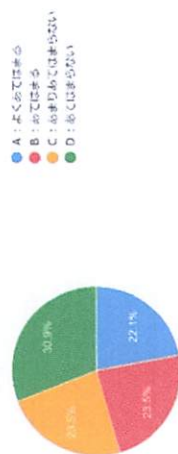
①-4 児童の学びの姿や成果を学校（学級）通して積極的に発信した。
10 件の回答



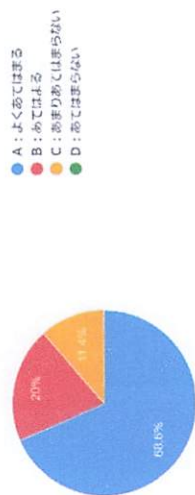
②-1 わが子は、主体的に家庭学習に取り組んだ。
68件の回答



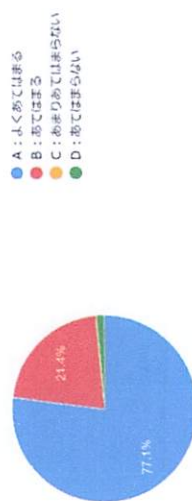
②-2 わが子は、家庭で読書に取り組んだ。
68件の回答



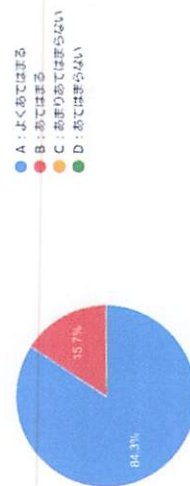
②-1 毎日の授業（じゅぎょう）や家庭学習に一所懸命（いっしょけんめい）に取り組んだ。
70件の回答



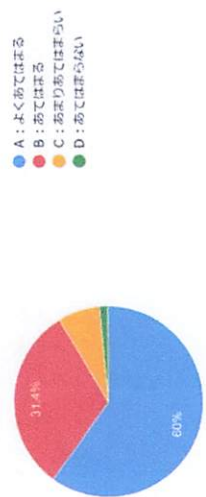
②-2 わからないことや知りたいことについて、すすんで調べることができた。
70件の回答



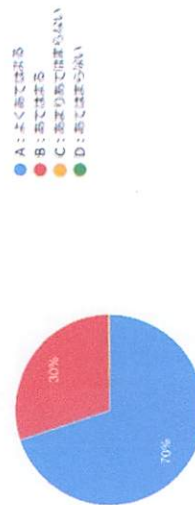
②-3 クロムブックを活用して学んだり、意見を交換（こうかん）しあったりすることができた。
70件の回答



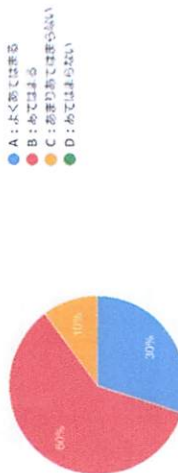
②-4 自分の意見や考えを持ち、相手に積極的（せっきよくてき）に伝えようとした。
70件の回答



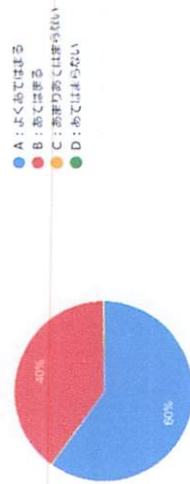
②-1 基本的な学力（知識・技能）が定石のように取り組んだ。
10件の回答



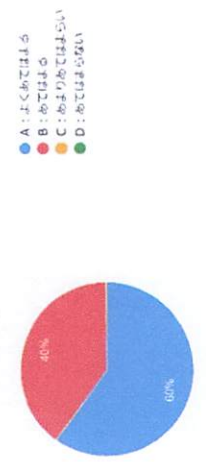
②-2 児童自身が自問を立て、解決しようと...つながるような教材研究・授業づくりを行った。
10件の回答



②-3 日々の授業や活動で、ICTを効果的に活用した授業改善を行った。
10件の回答

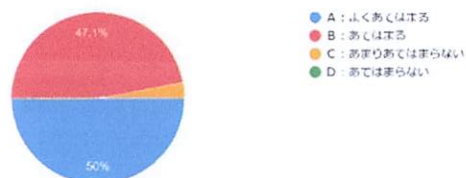


②-4 児童自身に自分の意見を持たせ、しっかりと伝えることができるような取組を行った。
10件の回答



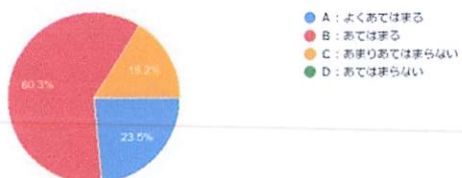
③-1 わが子は、友だちと協力して活動することを楽しんでいる。

68 件の回答



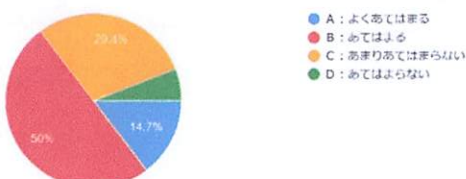
③-2 わが子は、家庭での生活で、お手伝いや自...て、自分が家族の役に立っていると感じている。

68 件の回答



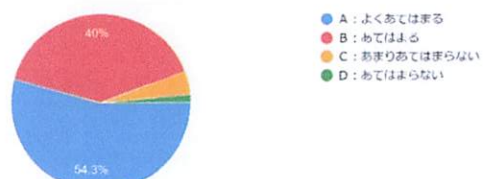
③-3 わが子は、相手を意識し、相手に伝える声であいさつや返事をしている。

68 件の回答



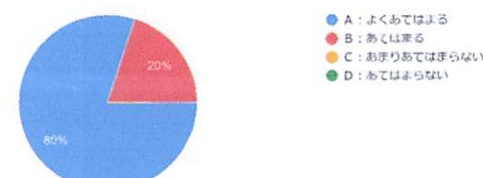
②-5 ボランティアの読み聞かせや学年間の読書交流などを通して、読書に親しんだ。

70 件の回答



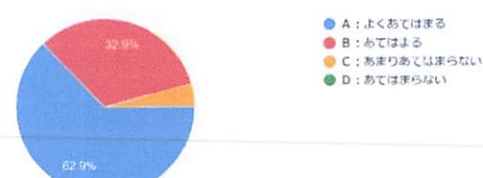
③-1 友だちと協力して活動することを楽しむことができた。友だちのためにすすんで行動できた。

70 件の回答



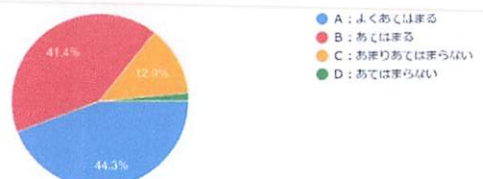
③-2 相手に伝える声であいさつや返事をすることができた。

70 件の回答



③-3 道徳や人権の授業（じゅぎょう）などで考えたことを、生活の中でいかそうとした。

70 件の回答



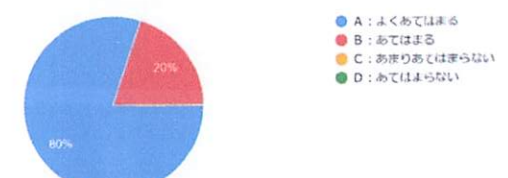
②-5 多様な読書活動に取り組み、読書を推進した。

10 件の回答



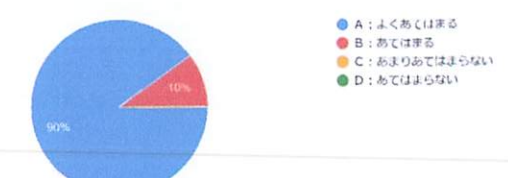
③-1 ポジティブ教育など、スキル向上を図る活...振り返りを通して、児童に自己有用感を育んだ。

10 件の回答



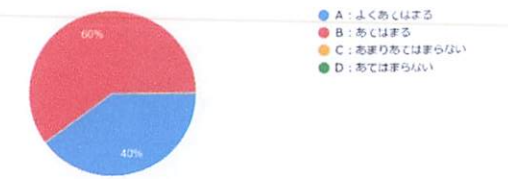
③-2 相手を意識した気持ちの良いあいさつや返事ができるように指導した。

10 件の回答

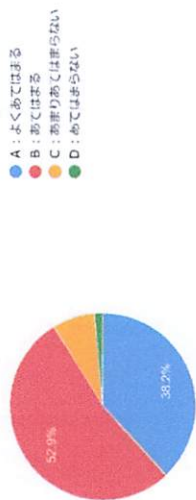


③-3 児童が互いに理解し、信頼し、互いに助け...権教育や道徳の授業を意図的、計画的に行った。

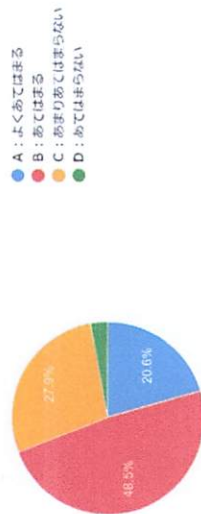
10 件の回答



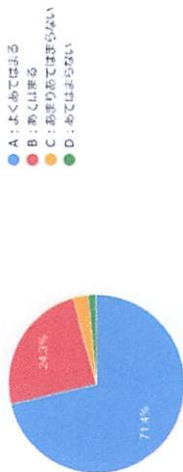
④-1 わが子は、学校の体力づくりを通して、体力がついてきている。
68 件の回答



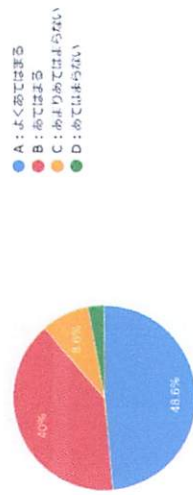
④-2 わが子は、規則正しい生活習慣を心がけている。
68 件の回答



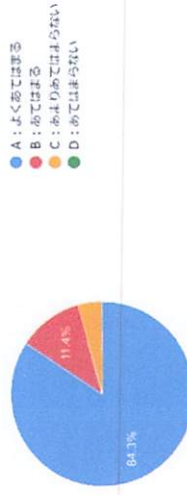
④-1 楽間マラソンやなわとびなどの体力づくりに一所懸命（いっしょけんめい）に取り組んだ。
70 件の回答



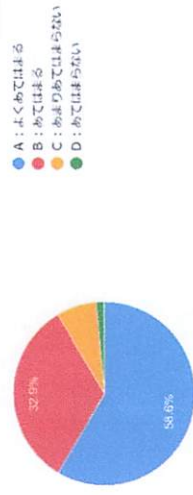
④-2 全校ポジティブで学んだことをいかして、行事や学習活動に取り組んだ。
70 件の回答



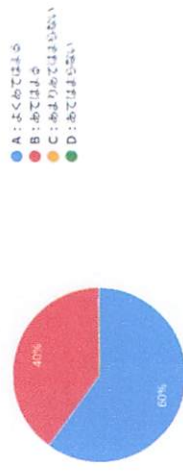
④-3 そうしに必要（ひつよう）のないことをし...らずに、集中（しゅうちゅう）して取り組んだ。
70 件の回答



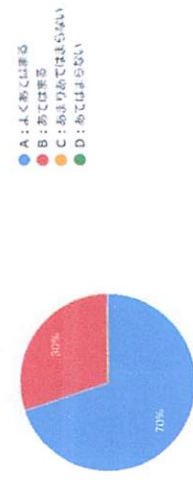
④-4 はやね・はやおき・朝ごはんを心がけた生活ができた。
70 件の回答



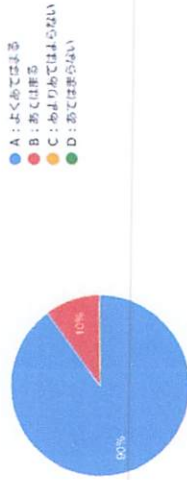
④-1 学校環境を生かした体力作りに取り組ませた。
19 件の回答



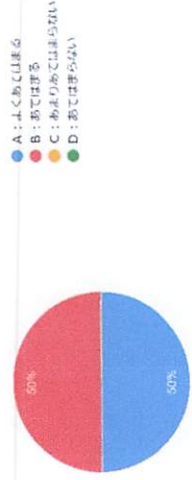
④-2 ポジティブ教育等に取り組み、児童の自尊感情や自己肯定感を高めようとした。
10 件の回答



④-3 児童に、無言を尊厳させ清掃に集中して取り組ませた。
10 件の回答



④-4 早起朝ごはんの大切さ、規則正しい...について家族と連携して取り組むことができた。
10 件の回答



地域を愛し地域に愛される子・地域に愛される学校

総合（生活）の体験的活動を中心とした探究学習と日常的な地域とのつながりの深さなどから、子どもの中には地域との一体感があり、内外海が好きである児童と解答した児童が 97.9%と高い数値となったことが考えられる。一方で

- ・その活動が学校内を中心としたものとなっていること。
- ・体験的な面は多いが、親子や地域で議論したりする機会は少ないこと

の一面がある。そこで、

- ・学校の取り組みの発信に加え、親子で会話する（話し合う、調査する）機会などを定期的に設けていく。
- ・体験活動を軸としながらも、年間を見据えた教科横断的な活動を実践していく。

ことが次年度のカギになっていくと考える。特に、子どもが家族に学校の活動（ふるさと学習）についてともに語る機会を設定していくことで、児童と保護者がつながっていくと考える。

- ・N I E の活動で、スピーチにふるさとの内容を意図的に仕組む。
- ・行事などの活動を中心に、その取り組みについて家族と語り合う機会を仕組む。

なども効果的だと考える。

また、この質問は 3 年生以上に問いかけたものだが、保護者は全学年を対象としたことも結果に影響したと考えられる。（3 年生以上の場合 75%）

志をもって、主体的に学び続ける子

読書の取り組みについては、朝読書や週末読書（家庭学習）、図書ボランティアによる読み聞かせ、縦割り班での本の紹介活動など計画的に取り組んできた。その結果、教師評価と児童評価は目標数値を超える結果となった。しかし、保護者評価については 43.7%（A+B）と低く、その中でも全く取り組めなかった（D）と回答した人は 31.3%であった。「家庭では、宿題、習い事、動画視聴等で読書時間を確保することは難しい」「読書をするように促しても、子どもが読みたがらない」「図書館へ行って本を借りることがなかなかできない」など、家庭で十分な時間を確保して読書することは難しいかもしれないが、児童が意欲的に読書をするためには保護者の協力が不可欠である。（週末読書の家庭学習について保護者が知らず、子どもに声かけをしていないかもしれない。声かけがなくても児童自ら読書をするのが理想だが、保護者からの声かけがなければ、あえて家庭読書をするのはしないという児童もいるかもしれない。）読書の大切さや楽しさを保護者の方にも理解していただき、家庭でも児童の読書時間が増えるように協力をしていただくことが必要である。

来年度は学校での取り組みに加えて、PTA でも読書の取り組みについて活動を進めていけるとよいのではないかと考える。

【来年度、取り組んでみるとよいと思われる活動例】

〈PTA〉

- ・研修委員会や子育て委員会などで R7 年度への課題として取り上げ、次年度の活動に取り入れてもらえるように依頼、検討する。（PTA 委員の方たちと一緒に考えるとよい。）

研修会や講演会、親子ふれあい活動などに図書教育のノウハウをお持ちの方に来ていただき、読書の

面白さや教育的効果などについて教えてもらったり、一緒に読書したりする。

- ・読書についての講演会
- ・親子で読書や読み聞かせ（親子ふれあい活動）

〈学校〉

- ・朝読書・・・各学年、曜日を決めて図書室で朝読書をする。（いろいろな本と出会う場を設ける）
- ・お便り・・・学校だよりや学年だよりで、家庭読書についてのお願いや読み聞かせの感想や本の紹介などを載せる。
- ・学校参観日・・・保護者が図書室の本を借りることができる日を設ける。
- ・読み聞かせ・・・保護者も読み聞かせを一緒に聞く機会を設ける。今年度実施し、好評だった学年交流読み聞かせを充実させていく。

主体的に多様な「ひと・もの・こと」とつながり合う子

学校行事やたてわり活動、学級での仲間づくりの活動を計画的に実施したことにより、友だちと協力しながら仲良く行動できた子が多かった。これらの活動を通して、人と関わることの楽しさを感じる児童も出てきた。休み時間には、異学年児童と誘い合って遊ぶ児童が多くなってきたと感じる。

児童は学校内や、決められたシチュエーションではあいさつができるが、一人の場面や地域、家庭でのあいさつができない現状がある。

- ・地域や家庭との連携が必要。PTA 活動やボランティアさんに協力を依頼する。
- ・子どもの主体的な活動で、あいさつの必要性を感じさせる。委員会活動や集会活動等で、あいさつの大切さや方法等を考えさせたり、自分たちにできるあいさつ運動を考えさせたりして、実践につなげていく。どんなときに、どのようにしてあいさつをするのか、丁寧に伝えていく必要がある。今年度、重点的に取り組んだ無言清掃をモデルとして、あいさつについても良いモデルを示し、実践していく。

「一所懸命に、たくましい心と体をつくる子」

児童と保護者の回答に差が出た理由としては、児童の質問には「早寝・早起き・朝ごはんを心がけた」となっているのに対し、保護者の質問には「規則正しい生活習慣を心がけている」となっていることが挙げられる。おそらく保護者は「規則正しい生活習慣」の中で、メディアコントロールができていないと感じているため、評価が低くなったのだと考えられる。児童への指導はもちろんだが、元気アップチャレンジや教育講演会などを通して、保護者への啓発を強化していくことが必要である。また、学級懇談会や個別懇談会で元気アップチャレンジの取り組み結果を提示して、具体的な話をすることも効果的である。

全校体制での2学期から黙勤清掃の取り組みが、児童の評価につながった。1学期から委員会で話し合い、試行錯誤してきたことで、児童の実践意欲にもつながったのだと考えられる。

縄跳び大会の各学年の目標設定を見直したことで、例年より達成感を感じることができた児童が多かったと考えられる。水泳やマラソン大会、縄跳び大会など、児童の頑張りを保護者に見てもらうことで、保護者の評価も高くなっていると考えられる。